**釣　心　記　④**

**“コラム”**

千年猛暑・地球温暖化

　　今年の夏は本当に暑く、“千年猛暑”などという言葉も聞かれました。 “千年猛暑”

というのは、気象予報士の森田正光さんが、近年の暑さを“気候の大きな流れの中で1000

年ぶりのレベルの猛暑が来たのではないか？“と説明した時に使った言葉です。 1000

年前と言えば日本では平安・鎌倉時代にあたり、かの徒然草の著者・兼好法師も我々と

同じように、この猛暑に苦しんだのではないか？と思われます。

　　さて、気温の上昇は確実に海水温も上昇させているようです。 愛知県水産試験場に

よると三河湾の8月中旬の平均水温は、表層（水面下3.5ｍ）で、28～29度と平年より

2度高く、その 一方、低層（海底高2ｍ）は平年並みの23度だったとのこと。　この水

温上昇のせいか、西三河漁協では、ガザミ（ワタリガニの一種）の水揚げが一気に増え

ました。 しかし、この現象は、『低酸素水塊』の発生で一時的に魚介類の活動が活発に

なっただけで、やがては、先細りになるだろうと予測されています。　また、三重外湾

漁協からは、現在はカツオやツバスなどの漁獲期だが、回遊量が少なく7月同様、8月も

例年を下回る見込み。 原因の一つは、海水温の上昇による漁場の変化ではないかという

報告も聞かれます。（毎日新聞より）

　　この高水温に対する警戒感は、漁業従事者のみならず遊漁船の船長の「魚の居場所が

　変わった」「今まで見なかったような熱帯系の魚がよく釣れるようになった」という発言

　からも感じとれます。 両者から最後に聞かれるのは「台風などで海がかき回され、水温

が下がり、以前と同じ状態に早く戻って欲しい」という言葉である。

　　気候や大気の状態、それに海洋の環境は互いに影響し合っているので、海の生物に

海洋環境の変化や地球温暖化の悪影響が更に広がることが懸念されています。 地球温暖

化の影響は、確実に我々釣り人にも迫ってきています。 地球温暖化ガス・炭酸ガスの

削減を心掛けながら、大いに釣りを楽しみましょう。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　＜ 松岡 隆春　　9／1 ＞